自分なりのイメージを広げ、進んで表現できる児童の育成

―「段階的な活動の見通し」と「資料提示の工夫」を通して―

図画工作・美術班　大河内香代子（小学校教諭）
担当指導主事　義務教育研究係　田中　賢治

授業実践　第３学年　図画工作
「広がれ生き物ワールド」―紙版画―

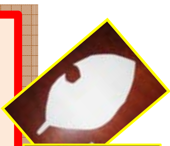
<手だて>

① 「段階的な活動の見通し」…大まかな活動内容が分かる手順表を作成し、完成への見通しをもたせる。

② 「資料提示の工夫」…学習のねらいに合わせ、参考作品や資料などの観点を明確にして提示する工夫。

児童のつまずき

○アイデアがなかなか思いつかない。
○作品が最後まで仕上がらない。
◎思ったようにうまくできない。



＜おもな学習活動＞

「森の地図」というお話から、森のおくで生き物たちが葉っぱの地図を持って集まる場面を表す。版作りの練習として、すぐに B5 判の画用紙１枚から自分でイメージした「葉っぱ」に取り組ませる。そして、「生き物」は体の動きが分かりやすいものを決めてアイデアスケッチ→版作り→各自が作った背景の用紙→試し刷り１枚→本刷り３枚。自分が感じたイメージの言葉を作品の題名にする。

つかむ → ひろげる → あらわす → あじわう

提示した資料

図を使ってやり方を理解させる

途中の作品からイメージを広げる

児童の作品

＜成果＞

○図や実演などを取り入れて、ポイントを絞ってその時間のめあてを理解させた。→児童全員に基本的な版画の技術が身に付いた。

○途中の児童作品を取り上げ、そのよさや工夫点を見付けさせるようにした。→「表したい作品のイメージ」を明確にさせることができた。

＜課題＞

○提示する資料を精選し、個人の能力や学習状況に応じた指導に活用できるようにしたい。また、授業の中でお互いの作品の「工夫点」や「つまずき」を助言し合える「交流の場」も積極的に取り入れたい。